

# お不動さんの白蛇

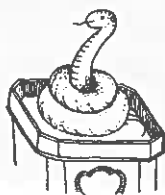
昭和五十五年三月五日号

むかし、神谷村の後藤某ごとうという家の土蔵どくらの中に、いつか白い蛇びが住みついでいました。

しかし、別に悪いことをするわけではなかつたので、長い間そのままにしておいたところ、あるとき、その家の主人が、「おまえは世にもめずらしい白蛇びげである。おまえがほんとうに神のお使いであるならば、この三玉さんぎゆの上に乗ってみよ」といいました。

するとどうでしょう、その白い蛇は静かに三玉の上の上のつて、いかにも「私は神のお使いである」とでもいうように、トグロを巻きました。

そこで主人は白蛇を三玉にのせたまま、不



動さんの本殿へもつていき静かにおいて帰ってきました。

そのあと、この白蛇は毎年三月二十八日のお祭りの日になると、きまつて岩の割れ目に姿をあらわすようになりました。

そのため、お祭りに来る人たちはその光るものをみたさに、一必ひとばかりの岩をよじのぼつて、岩の割れ目に顔をおしあてて、奥の方をそつとのぞきます。

たしかに割れ目の奥に、わずかな光を反射して、銀色にかがやくものが見えます。

よくよく見るとそれは蛇で、しかも白い蛇です。

土地の人々は、その白蛇をみた人は、近いうちにきつとよい事があるといい、この白蛇が不動さんの使いだと信じています。

## 白と金色の蛇が

加藤正作さん(神谷三丁目)

わしが子どもころ、岩の入口で白い蛇を見ることがある。岩の中には、白い蛇と金色の蛇がいるといわれている。

昔から、蛇をいじめたり殺したりしてはいけないといわれてきた。もしもそんなことをしたら、たたりがあるんだよ。

## 神谷のお不動さん

白蛇はくだで有名な神谷町のお不動さんの本殿ほんだんは、位牌岳いはいはくから南へのびた尾根おしかの一番先が、やがて平地となるあたりの、丘の西がわのすそをけずって建ててあります。本殿の東がわは切りたつた岩のかべになつていて、そのすそ近くにななめに長さ二呎、巾五呎、深さ一・五呎ほどの割れ目があります。不思議なことに、毎年三月二十八日の不動尊のお祭りの日になると、きまつて割れ目の奥に光るものが見えます。普通の日にのぞいてみても何も見えないのに、この日に限ってみえるのも不思議です。